

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4572100677		
法人名	社会福祉法人川水流福祉会		
事業所名	グループホームひえいの郷	ユニット名	A棟
所在地	宮崎県延岡市北方町川水流卯1810番地-24		
自己評価作成日	平成22年6月29日	評価結果市町村受理日	平成22年9月28日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 <http://kouhyou.kokuhoren-miyazaki.or.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=4572100677&SCD=320>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会		
所在地	宮崎市原町2番22号宮崎県総合福祉センター本館3階		
訪問調査日	平成22年7月22日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自然に囲まれた環境のなかで四季折々の草花や野菜作りをする事によって昔を思い出し、意欲の向上に繋げている

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者にとって、日々の生活の中での散歩、買物、ドライブ等の外出は大きな楽しみとなり、定期的に頻繁に実施されている。
さらに、一人ひとりの希望や思いを尊重し、「自分だけの日」を設け、利用者の行きたい所に一緒に付き添う外出支援が取り入れられている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	A棟	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員は理念をミーティング等で話し合い、共有し意識して実践が行えるように心がけている。	職員と利用者はお互いが家族の一員として、「ゆっくり、一緒に、楽しく」の自然体で過ごすことを理念としている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	機会があれば地域の行事に参加したり、地区のミニバレー大会に参加したりする事で地域との交流を図っている。	町のフェスティバルに作品を出品したり、保育園児や保護者との花見や梅の収穫に参加している。職員もミニバレーボールの夜間練習や大会に参加し、ホームをあげて地域との交流が図られている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	老人クラブ等の訪問により、利用者の人達の暮らしぶりを見て頂く機会がある。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	活動や行事への参加、日常の様子を報告し理解して頂き、また、運営推進委員の方より色々な意見を伺い参考にしている。	運営推進会議は2時間程度、2か月ごとに開催されている。行政と地区の各委員や福祉有識者からスーパーバイザー的助言や提言が得られている。	会議で協議された事項について、ホームの検討結果や経過を次の会議に報告し、内容を積み上げ更に踏み込んだ会議になることを期待したい。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議にも出席して頂き、様子を伝えており、分からない所など聞くようにしている。	担当者は、運営推進会議に出席し、ホームの理解や状況の把握を行っている。毎月発行されている「郷のたより」は郵送し、外部評価結果は運営推進会議時に報告が行われている。	目標達成計画、他のグループホームの参考情報など、目指すケアの構築や問題解決に向け、行政と共に取り組むことが求められている。更なる協力関係を継続していただきたい。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	内部研修や資料などで認識を深め周知徹底し身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	職員は、身体拘束の内容と弊害を理解している。外出を希望する利用者には遠目の見守りや円庭の外出に同行し、全ての出入口は開放され身体の拘束も行われていない。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止については徹底しているところであるがさらに研修の機会を増やし一層の周知徹底を図っていく必要があると考えている。			

自己	外部	項目	自己評価	A棟	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在1名の利用があるので権利擁護の知識を身につけるよう勉強しているところである。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には重要事項説明書をもとに契約内容の説明を行い、疑問な点や不安に思っていることを伺うようにしている。			
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会の際や家族会開催時など家族からの要望や意見を聞くようにしている。玄関に苦情受付ボックスを設け要望など受ける体制を作っている。また利用者と会話する機会を多く持ち、要望がないか聞いている。	ホームには常に花を絶やさず、職員は笑顔で接し、気軽に話せる雰囲気づくりに配慮している。家族の意見や要望を取り入れ、盆帰宅、墓参り、なじみの美容院など「行きたいところへ出かけよう」が行われている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議や行事計画会などで出された意見を受け止め実践に役立てるようにしている。	毎月定例の職員会議や行事計画会議は、参加者が発言しやすい雰囲気であり、管理者は出された意見等を実際の運営に反映させていることが職員のヒアリングでも確認できた。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員一人ひとりをよく把握しその人に応じた助言をされている。			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月に2回内部での研修を行っており、外部研修の際はミーティングや職員会議などで報告し、質の向上に努めている。			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修の際には他事業所の職員との情報、意見交換などを通して、交流を図っている。			

自己	外部	項目	自己評価	A棟	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	会話する機会を多く持ち不安な事があればじっくり話しを聞くようにしている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面会時や家族会等で家族が不安におもっている事や要望などを聞いて理解するよう努めている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	その人に必要なサービスを提供できるよう職員間で話をしている。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	分からないことを教えていただいたり職員の様子を見て自ら手伝ってくれる方もいる。一緒に笑ったり悩んだり利用者が職員の心配をしてくれることもある。			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日常の様子など家族に報告し、職員だけでは対応が困難な場合には家族に協力をお願いしている。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ドライブや買物では地域に出かけ、かわりを持つようにしている。また個人の行きたい所に出かける機会も設け、地域とのかわりを継続するようにしている。	ホーム利用前のなじみの商店での買い物や、個人的に行きたいところに出かけ、関係が途切れないよう支援をしている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員は一人ひとりを把握し、利用者同士が円滑な人間関係を築けるよう支援している。			

自己	外部	項目	自己評価	A棟	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要があればかかわりを持つようになっている。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式のアセスメントシートを使い職員間で情報を共有し、支援につなげている。	センター方式導入（認知症の人のためのケアマネジメントセンター方式）についての研修を履修した職員はいないが、利用者の理解に有用なツールとして昨年より全員で使用し、必要性を認識している。今後、研修に参加し、研さんしたい意向である。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人に話を伺ったり、家族からも本人の生活歴や思いなど様子を聞いている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個別に記録し状態の把握に努めるようになっている。より明確な記録が出来るように研修を行っている。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族から要望や望む暮らし方を伺い、また職員からも意見を聞き計画に反映させているが、家族からの意見が少ない状況である。	センター方式によるアセスメント等で本人の思いの引き出しや、職員の気づきなどを出し合いながら、介護計画を作成している。また、本人の暮らしぶりやホームの状況を、毎月の「郷のたより」で家族に届け、来訪時に意見を引き出す努力がされている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日記録を行い、観察に努め変化を見逃さないようになっている。記録をもとにケース検討会を行っている。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	必要があれば併設施設の看護職が対応する体制がある。習字教室や大型車を借りて皆で出かけたり、合同の行事の開催など併設施設とのかかわりが多い。			

自己	外部	項目	自己評価	A棟	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	災害の発生に備え地区の消防団の協力体制や地域の美容院から来ていただきたりして、地域とのつながりを大切にしている。			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	面接時に協力医の説明を行い同意が得られれば往診を受けている。医師が毎週末園し変化が見られた場合は相談したり対応していただいている。	町内1か所の医療機関が協力医であり、利用者にとっては以前からのかかりつけ医である。内科疾患は毎月1回の往診を受けている。その他の受診は家族が同行している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	資格を持った職員が対応。また併設施設の看護職の協力体制がある。介護職は常に相談しながら利用者が安心して暮らせるよう支援している。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	往診時や何かあった場合は協力医に相談しており、情報交換に努めている。また北方医院でも他の医療関係と連携をとっていただいている。			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	必要に応じ併設施設の利用を勧める場合もある事をお話している。	初期の法人の方針として、重度化した場合は医療機関への入院、併設の介護老人福祉施設の利用を説明し同意書を交わしている。職員もホームにおいて終末期ケアは困難との認識が伺える。	ホームの職員の力量や体制は日々向上し変化していくものであり、本人や家族の意向を受け、ホームが対応できる最大の支援方法について、協力医を加えたチームとして話し合いが持たれることを期待したい。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応のマニュアルを作成し、研修を行って備えている。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	月1回の避難訓練を実施。昼間、夜間想定などそれぞれ状況に応じた避難訓練を行い、記録し、反省点を次に繋げている。地区の消防団も訓練に参加していただくなど協力体制も出来ている。	年2回の総合訓練のほか、毎月1回はホームで昼間や夜間を想定し、避難訓練が行われている。全員の誘導所要時間や協働体制など、訓練ごとに検討し継続させている。		

自己	外部	項目	自己評価	A棟	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人情報に関しては入所時に個人情報同意書を取っており、守秘義務の徹底を図っている。人格を尊重した声掛けにも配慮している。		職員は一人ひとりに対し、食事が楽しく進むような話題や話かけ、排泄の誘導時のさりげない声かけ、利用者への感謝の言葉や対応が極自然にみられた。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の希望を聞きながら生活していただいている。ゆっくりと話を聞いたり、自分で意思決定できるような声掛けに努めている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の能力に応じ自己決定をしていただいている。 働きかけるが無理強いしないようにしている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	理美容は二ヶ月に1度本人の希望をききながら行っているが家族ともに馴染みの美容室へ出かけられる方もいる。外出の際には自分で洋服をえらんで頂いたり、身なりを整えたりされている。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事が楽しみとなるよう献立を立てるときには好みのものを聞いたり、食事が出来たときには味見などをしてもらっている。また食器の配下膳など職員と一緒にやっている。	利用者と共に考えるホーム独自の献立は、好みや季節の素材を取り入れ、配ぜん・下ぜんやお茶配りなどを職員と共に行っている。ひな祭り会食や鮎やなの外食は、利用者の楽しみな行事となっている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分補給は時間を決めて摂って頂いているがそれ以外でも自分の飲みたい時には自由に飲んでいただいている。食事の摂取状況も記録を行い把握に努めている。毎月1回体重測定を行い、増減に注意している。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後歯磨きの誘導をしており、一人ではできない方の場合は介助を行っている。上手く口を開けられない時でも時間をかけ落ち着いた状態でする事で対応している。			

自己	外部	項目	自己評価	A棟	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレの訴えがある場合やサインを見逃さないようトイレ介助を行っているが訴えが無い場合でも排泄状況を記録して、排泄パターンを知りトイレ誘導している。		トイレは各居室ごとにあり、排泄介助の必要度に応じて支援がなされている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事の献立に食物繊維を多く含んだ野菜を取り入れたり、おやつに牛乳を毎日飲んでいただいている。毎朝腹部マッサージの時間を設けている。			
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	本人に入浴の希望や時間、好みの温度などを聞いて把握し、入浴を楽しんでいただくよう支援している。		入浴は毎日、個別入浴で対応し、背中を洗いながら利用者と会話するなど、楽しい雰囲気の入浴していただけるよう支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	早く休む方、遅くまでテレビを見られる方等が他の方に迷惑にならないよう配慮しながら自由にしていただいている。夜間不安になる方にはじっくり話を聞くようにしている。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	用法、用量はお薬手帳で確認している。服薬の際は確実な服薬の為に声を出して確認を行っている。薬について必要があれば看護師や病院に問い合わせを行っている。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者が好きなことを把握し日々の活動の計画に生かしている。また、カレンダーをめくる方やテーブルを拭いてくれる方、洗濯物をたたんでくれる方、食器洗いの手伝いをしてくれる方などそれぞれが役割を持って生活されている。			
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩に出かけたり買物やドライブなど園外にも出来るだけ出かけるようにしている。本人の出かけたいところに一日付き添い出かける機会を設けている。		日々の園庭散歩、車で町内への買い物やドライブが積極的に計画されている。また、「その人のために、その人が行きたい所に外出する」オーダーメイド型の外出支援も行われている。	

自己	外部	項目	自己評価	A棟	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買物に行かれた時には職員が払わず本人に払っていただくようにしている。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望があった場合はかけてもらっている。家族より電話があれば取り次いでいる。本人が活動のなかで書かれた手紙を郷の便りと一緒に家族に郵送している。			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関や室内などに季節の花々を飾ったり、壁飾りを活動で製作し室内に飾ったりして居心地の良い環境作りに配慮している。		玄関の大きな花瓶いっぱい季節の花々が生けられ、壁には利用者が製作したひまわりが飾られて夏の季節感に包まれている。大きな窓から見える川向こうの自然の風景が、一層居心地の良い環境を作り出している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下にたたみのスペースやホールに椅子やテーブルを置き自由に過ごしていただけるように配慮している。			
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の写真やぬいぐるみを飾る方、家から衣装箱を持ってこられたり本人が、使い慣れたものを置き、落ち着いて過ごせるよう配慮している。			
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	部屋に手すり付きのトイレ、浴室にも手すりをつけている。居室のドアは引き戸、洗面所は車椅子でも使いやすいタイプのもを用意している。			